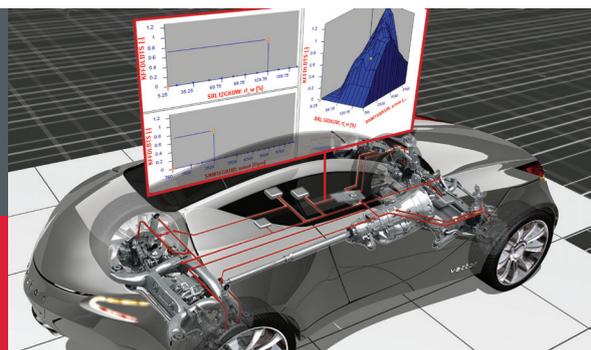


パイロットから製品開発まで

ケーススタディー:ZF



導入企業

ZF Friedrichshafen Getriebe(以下ZF)は、乗用車、商用車、バス、鉄道、船舶、ヘリコプターなどに使用されるドライブトレイン分野のコンポーネントとシステムを提供しています。

課題

一元的なデータ管理が可能な、プロセスに準拠した全社的なシステムを構築したい

ZFは、増え続ける複雑なドライブトレインのキャリブレーションプロジェクトとそのデータ量に対処するため、新たなキャリブレーションデータ管理システムの導入を必要としていました。

ソリューション

市場で定評のあるツールスイートで構成された統合型システムソリューション

eASEEソリューションのコンポーネントであるeASEE.cdm*は、EDMシステム、プロセスツール、キャリブレーションツールの機能を1つに統合した包括的なシステムソリューションで、キャリブレーションプロセスにおけるデータバックボーンとして機能します。

*2012年以降、「eASEE.cdm」は「vCDM」の名称で販売されています。

導入メリット

プロセスに準拠した全社的かつ高品質なデータ管理

量産レベルのキャリブレーションプロジェクトは、その領域全体を通して定義されたキャリブレーションプロジェクトに基づいて行われます。eASEE.cdmはこの際、以下のような圧倒的な優位性を発揮します。

- > プロセスのステップを並行して実行
- > 自動的なチェックと検証により、データフリーズに必要な時間を大幅に短縮
- > 効果的なバリエーション管理によって手作業の工程を削減
- > キャリブレーションプロセスが完全にトレース可能であるため、データのリビジョンレベルを再現可能
- > キャリブレーションチームのコラボレーションを最適化
- > キャリブレーションプロセスの進捗状況を分かりやすく表示